



生誕**100**年
Funada Gyokuju
船田玉樹展

異端にして正統、
孤高の画人生。

会 期:平成25(2013)年1月21日(月)～平成25(2013)年2月20日(水)

※会期中無休

開館時間:9:00～17:00(金曜日は19:00まで)

※1月21日(月)は10:00から。入館は閉館30分前まで。

料 金:一般 1,000円(800円)

高・大学生 600円(400円)

小・中学生 400円(200円)

※()内は前売・20名以上の団体



- JR広島駅より約1km
- 広島城より約400m
- 市内電車(「八丁堀」で乗り換え)白島線で「縮景園前」下車約20m

名勝「縮景園」とともに歩むアートの杜



広島県立美術館
Hiroshima Prefectural Art Museum

〒730-0014 広島市中区上鞆町2-22 TEL(082)221-6246
<http://www1.hpam-unet.ocn.ne.jp/> FAX(082)223-1444

【展覧会概要】

異端にして正統、孤高の画人生。故郷・広島にて、その全貌に迫る。

船田玉樹(1912-1991)は、広島県賀茂郡広村(現在の呉市広)に生まれ、近年では日本画のアヴァンギャルドとして大変注目されている画家です。

最初の師は、かの天才日本画家・速水御舟(1894-1935)でした。しかし、まもなく御舟が没したため小林古徑(1883-1957)に師事。そこで、まず謹厳な線描と端麗な色彩を駆使した日本画表現を学びました。1938年には丸木位里らとシュルレアリスムや抽象主義などを積極的に取り入れ、日本画を基礎とした前衛表現を戦中まで追究しました。

戦後は郷里の広島に根をおろして創作を続け、岩絵具や墨のみならず油彩やガラス絵など日本画では通常、用いることのない様々な画材とひたすら向き合った作品も残しました。

本展覧会では、シュルレアリスムや抽象表現に挑戦していた時代の作品をはじめ、琳派的な豊かな装飾性を示す屏風作品、水墨表現の可能性を追い求めた山水画、扇面図、これまでほとんど知られていなかった河童の連作など、多彩な作品約230点(師や交友の画家たちの作品を含む)を一挙公開し、絵を描くことが人生そのものだったこの特異な画家の全容にせまります。

(広島県立美術館主任学芸員 永井明生)

【船田玉樹について】

※「生誕100年 船田玉樹展」公式図録兼書籍
『船田玉樹画文集 独座の宴』(求龍堂)より抜粋

氏は最後までその作品に向かい続けるのだ。画面いっぱい松と梅をとにかく描き続けること、その上に金箔を貼り、また描く。その描線の奥にあって消されたものもまた生命(いのち)。ここで私はミケランジェロのピエタやガウディの未完のサグラダファミリアを想うかべるべきかも知れない。この未完成なものへの執着は、宮沢賢治の異稿の多さと較べるべき長い道程(みちのり)だ。
—北川フラム(アートディレクター)

春のレンゲ、サクラ。夏のカラスアゲハ(たまにミヤマカラスアゲハ)、イトトンボ。秋のアケビ、シイの実。そして冬の足指の霜焼け・・・そんな自然に対する、四季に対する実感は、私の日本美術に対するアニミズム的理解の根幹を形成している。(中略)玉樹と私は、まさに同じ空気を吸っていた。
—山下裕二(明治学院大学教授)

船田は風景を得意とした。だがその本領は、一本の大樹を描くことにある。(中略)闇の中から木が、家が幻のように浮かび出てくる、そのような世界を船田は描こうとした。重ねた色の底から、年を経て、下地の色が洩れ出てくる色香を愛した。私はそれを、制作のはじめから手が離れるまで、二年間ほどそばで見ていた『枝折桜』において体験した。私にとっても美学の道場であった。

—金田晋(美学、東亜大学特任教授、広島大学名誉教授)

モノクロームの画面から伝わる韻律は、時として無窮へのたじろぎを覚えさせながら、ゆるやかで甘美な抱擁感にみちびくような尊い何ものかをも感じさせる。あるいはまた、大気の幾重にも重なるうそぶきが、やがて壮大な交響楽に変わってゆくようなスケールをもっているのだ。(中略)

それらの作品の前では、言語も、観ることさえも齒がたたないかもしれない。我々は、ただその前でたたくむしかない。

—野地耕一郎(練馬区立美術館主任学芸員)

御舟や古徑、靱彦を慕い、作画姿勢に対する高い意識を保ち続けた玉樹は、群れることを避けてあえて孤独を選び取り、自らの絵画世界を求めてひたすら内側へと沈潜する傾向を強めていく。(中略)船田玉樹の到達した芸術の高みが未来へと継承され、その作品の魅力が多くの方々へ届いてほしい。

—永井明生(当館主任学芸員)



『船田玉樹画文集 独座の宴』(求龍堂)
3000円(税抜き)

【展覧会構成と内容】

I：画業のはじまり―師・速水御舟、小林古径と共に

中学時代から油彩を始めた玉樹は、はじめ洋画家の山路商に学び、鬚光らとも交流。しかし、上京後、琳派絵画に感銘し日本画に転向。1934年より速水御舟、その後は小林古径に師事した。1938年からは歷程美術協会で丸木位里や岩橋英遠らと研鑽。シュルレアリスムなどを果敢に取り込んだが、1944年に応召、病を得て広島に帰り、以後故郷を離れることはなかった。第一章では、師友の作品も併せ、自らの絵画世界を探究しはじめた玉樹を紹介する。



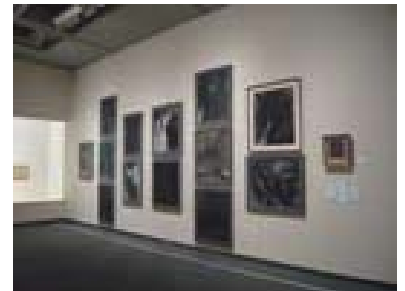
II：新たな出発―生涯のテーマ、花そして風景

終戦後、徐々に大作を描き始めた玉樹は、1948年からは院展に再び出品、幻想を帯びた風景画は安田靫彦から激賞された。だが、出品サイズをめぐる齟齬から1963年に院展を脱退、新興美術院に理事として参加した。そこに発表した《九品仏》や《滝》連作は、積藁や睡蓮を執拗に描き続けたモネを連想させる。一方、個展でも同じテーマが追究され、折々の花や風景等いずれも密度のある珠玉の小品群となっている。



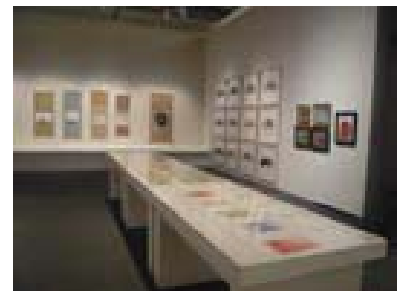
III：水墨の探究―異端にして正統、抽象への挑戦

1960年代半ばから、玉樹は再び水墨表現にも冴えを見せはじめる。1930年代半ばから培った様々な技法を駆使して、山水表現を展開。1974年にクモ膜下出血で倒れた後も、不自由ながら指先を何とか制御し、玉樹は憑かれたように水墨で抽象的な形象に挑み続けた。数千枚に及ぶ水墨実験の末、さらに気韻の生動する山水表現へとそれは展開を果たすことになった。



IV：孤高の画境へ―華やかな大作、屏風の競演

大病を機に、玉樹は新興美術院を脱退。以後無所属となって制作三昧の日々を過ごす。水墨にガラス絵のコラージュ、水墨河童を一気に制作し、また河童の詩を何篇も詠んだ。また、扇面《山の家》連作は墨の濃淡やぼかして気宇壮大な世界の広がりを表現。最晩年には、驚くことに一層華やかな梅や桜、松の大作屏風を積極的に制作している。そして、1991年、「画神」に取り憑かれた画家は世を去った。



【作家略歴】

船田玉樹(ふなだ・ぎょくじゅ) 1912年、広島県加茂郡広村(現・呉市広)生まれ。1936年、院展に初入選。以後、新日本画研究会展や歷程美術協会展などで前衛的な作品を発表し続けた。1944年から広島に拠点を移し、多彩な作品を発表。1991年、急性心不全で死去、78歳だった。



画室での制作風景

上記はいずれも、練馬区立美術館にて開催した「生誕100年 船田玉樹展」(平成25(2012)年7月15日～平成25(2012)年9月9日)の様子。

【関連イベント】

特別対談

「船田玉樹について語る」(広島県立美術館友の会共催)

講師: 山下裕二(明治学院大学教授)、船田奇岑(絵師・テルミニスト 船田玉樹子息)

日時: 1月27日(日) 13:30～

場所: 地階講堂

※聴講無料。申込不要(先着200名)

美術講座

「孤高の画人生—船田玉樹」

講師: 永井明生(広島県立美術館主任学芸員)

日時: 2月3日(日) 13:30～

場所: 地階講堂

※聴講無料。申込不要(先着200名)

記念コンサート

「仏教賛歌のタベ」

出演: 仏教賛歌混声合唱団コール・スガンディ

日時: 2月8日(金) 17:00～

場所: 1階ロビー

※無料。申込不要

「船田玉樹にささぐ 実験を楽しむ心—第1回広島電子音楽研究会」

出演: 船田奇岑(絵師・テルミニスト 船田玉樹子息)ほか

日時: 2月9日(土)・10日(日) 各日 10:00～16:00

場所: 地階講堂

※船田玉樹展入館券が必要(定員200名)。申込不要

ワークショップ

※ワークショップは事前予約制 各回とも定員15名

※詳細は当館にお問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。

1)「玉樹に倣う^{なら} 扇面に描こう! 水墨編」

講師: 森山知己(日本画家)

日時: 2月2日(土) 13:30～

場所: 3階ロビー

2)「玉樹を模写 扇面に描こう! 色彩編」

講師: 王培(広島市立大学助教)、他

日時: 2月17日(日) 13:30～

場所: 3階ロビー

ギャラリートーク

講師: 永井明生(広島県立美術館主任学芸員)

日時: 毎週金曜日 11:00～、2月1日(金)、2月15日(金) 18:00～

場所: 3階企画展示室

※船田玉樹展入館券が必要。

【開催概要】

展覧会名称

生誕100年 船田玉樹展

開催クレジット

主催 船田玉樹展実行委員会(広島県立美術館、乃村工藝社・イズミテクノ美術館活性化共同事業体)
中国新聞社

後援 中国放送、広島テレビ、広島ホームテレビ、テレビ新広島、広島エフエム放送、FMちゅーピー76.6MHz、
エフエムふくやま、尾道エフエム放送、FMはつかいち76.1MHz、FMハムスター79.0MHz(予定)

助成:芸術文化振興基金

会期

平成25(2013)年1月21日(月)～平成25(2013)年2月20日(水)

※会期中無休

入館料

一般:1,000円(800円) 高・大学生:600円(400円) 小・中学生 400円(200円)

※()内は前売り・団体20名以上

※身体障害者手帳,療育手帳,精神障害者保健福祉手帳及び戦傷病者手帳の所持者と介助者(1名まで)の
当日料金は半額

※東日本大震災避難者は無料

※特別展入館券で所蔵作品展もご覧いただけます。

問い合わせ先

広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail. keiko_yamamoto@nomurakougei.co.jp(山本宛)

担当 学芸課 永井明生

事業推進課 山本恵子

【関連企画】

「船田玉樹—創造の森へ」展

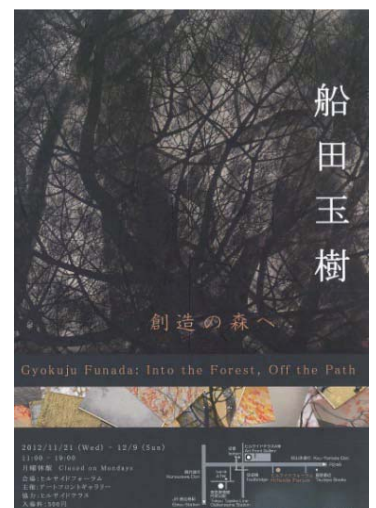
会期:平成24(2012)年11月21日(水)～12月9日(日)

会場:ヒルサイドフォーラム(東京都渋谷区猿樂18-8 ヒルサイドテラスF棟)

主催:アートフロントギャラリー

協力:ヒルサイドテラス

入場料:500円



【出品作品図版】

※出品作品は、予告なく変更となる場合がございます。ご了承ください。



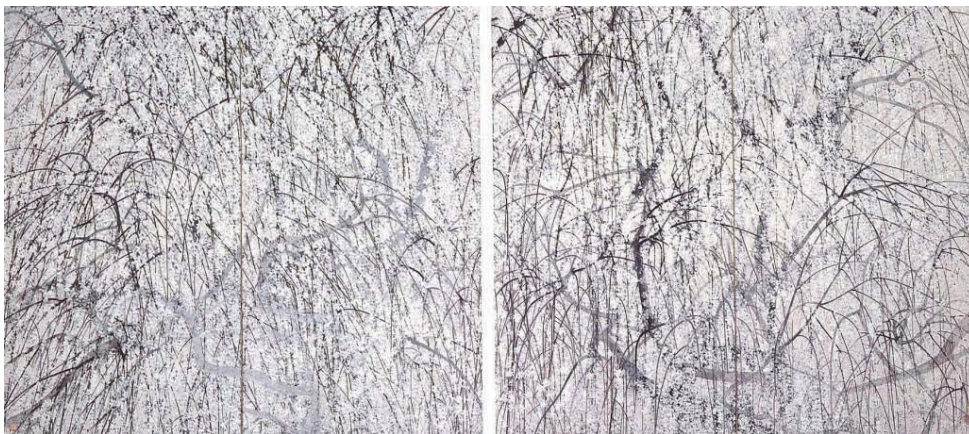
《花の夕》1938年 180.0×359.3cm 紙本彩色・四曲一隻屏風



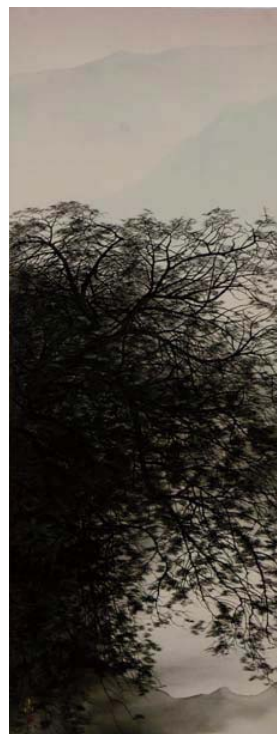
《すすきの原の秋》1950年
180.0×68.0cm
絹本彩色・額 広島県立美術館蔵



《暁のレモン園》1949年 181.2×362.0cm 紙本彩色・四曲一隻屏風 京都国立近代美術館蔵



《枝垂れ桜》1986年 169.7×185.0cm 紙本彩色・二曲一双屏風



《海辺老松》1973年
146.2×55.6cm
絹本墨画彩色・軸